

科目名: 経済入門

担当教員: 堀内 英次

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 火5

配当年次: 1年次のみ

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2025-11-28 07:14:37 更新者: AA2411

更新日時: 2026-01-21 15:41:02

履修条件・関連科目等

特にありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

＜学位授与方針と当該授業科目の関連＞

この科目は、現実把握力(経済学の専門知識及び社会・人文・自然科学の知識教養に裏付けられた広い視野に立った柔軟な知性に基づき、現実の経済現象を的確に把握することができる)の修得に関わる科目です。

＜概要＞

テーマ: 日本経済入門

内容: テキストをもとにして、日本経済の現状とその仕組みを学びます。そのために、日本経済のこれまでの展開を踏まえ、産業構造や雇用、貿易、為替、財政、人口構造、格差問題等を幅広く講義します。また、当該テーマについて4回程度グループディスカッションを行い、毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。

科目目的

経済学的な物の見方や考え方、分析方法等に関して基礎的素養を学び、本格的な経済学を学ぶ前段階として知識を蓄えることを目的とします。

到達目標

この授業は、経済学の基本的な考え方を示し、様々な経済問題を分析する視点や知識が習得できるよう進めていきます。こうした知識をもとに、日本経済や日本社会が直面している諸問題を分析する能力を養うことが到達目標です。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス: 授業の進め方、成績評価の説明等
- 第2回 経済成長を考える(その1): 高度成長・安定成長期
- 第3回 経済成長を考える(その2): 低成長期
- 第4回 企業活動を考える
- 第5回 労働を考える
- 第6回 社会保障を考える
- 第7回 財政を考える
- 第8回 金融・金融政策を考える
- 第9回 貿易を考える
- 第10回 農業と食料安全保障を考える
- 第11回 技術のデジタル化と日本経済
- 第12回 格差問題
- 第13回 近年の国際経済問題
- 第14回 まとめ総括

※講義の進捗によって、講義内容及び講義計画が変わる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	40% 持込自由の論述式。
レポート	0%
平常点	60% 1) 毎回の講義内容の振り返りの提出状況・内容の評価。 2) 毎回の授業後のリアクションペーパーの提出状況と内容、授業での発言を評価。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

平常点(60%)と期末試験(40%)で評価します。

平常点は、毎回の授業後のリアクションペーパー、授業での発言を評価します。
期末試験は、持込自由の論述式で行います。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを活用します。スマホやPC、タブレット端末等を持参してください。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
浅子和美他(2024)『新入門・日本経済』有斐閣。
【参考文献】
小峰隆夫・村田啓子『最新日本経済入門(第6版)』日本評論社、2020年。

オフィスアワー

その他特記事項

この講義は、高校生が履修できる科目等履修生制度の対象講義となります。そのため、高校生の履修者が同席する可能性があります。また、特定高校を対象とした遠隔授業も同時に実施する講義(いわゆるハイフレックス型)となっています。以上のことに留意して履修するようにしてください。

また、前述のように講義内容及び講義計画が変わる可能性があります。変更の場合には1週間前までにコースニュースで案内しますので、毎回確認するようにしてください。

参考URL

備考

【ここには何も入力しないで下さい(管理者のみ閲覧可)】
